STAND BY BLUE 01

DRAGONS NAVIGATOR

TAKUMI HASEGAWA

STAND BY BLUE ～想いでつなぐ物語～ / 01 ≫ ドラゴンズナビゲーター　長谷川 巧

長谷川巧、という音色。

その声を聴いただけで何かが思い浮かぶ、そんな男に誰もがなれるわけではない。顔は知らなくても声は知っている、そういう存在になれるのは「声」を仕事ととし、「声」を強烈なアイデンティティとしている人に限られる。

バンテリンドーム ナゴヤの顔ならぬ「声」、それが長谷川巧だ。ドラゴンズナビゲーターとしてホーム開催試合で選手名やエールをコールし、野球観戦をより楽しいものに盛り上げることに一役かっている。役者を志したことから始まったこの道で、巡り合わせが重なって辿り着いたこの天職。**「そもそもドラゴンズファンなので、自然体で臨めるのはとてもありがたいです。でも、試合で起きるドラマによっては感傷・感慨に持って行かれそうになる瞬間もあり、プロとしての仕事とファンとしての気持ちのはざまで戦う時もありますよ(笑)」**そう話す彼の表情からは、この役割をとても楽しんでいることが容易に見て取れる。そして、責任を果たすこと、そのことが楽しそうだ。だからこそ努力し、自分を律し、自身とドーム観戦の有りようの進化を希求しているのだろう。

2020年7月10日。長かった公式戦の無観客開催期間を経て、5,000人とはいえやっとファンを迎え入れて試合ができた昨シーズンの有観客初日の対広島戦。両エースが力投し、延長にもつれ込んだ好ゲームの最後に、ビシエドのサヨナラHRでドラゴンズは劇的な勝利を飾った。しかし、大野雄大の鬼気迫るピッチングでもなく、4番打者の起死回生の一発でもなく、この試合で長谷川が心が震えたと振り返るのは初回、広島の先頭打者が打ち上げたセカンドフライをスタメンの溝脇がキャッチしたその瞬間、ドーム内に沸いた大きくて温かい拍手だと言う。**「これを聞いた時に、プロ野球の素晴らしさや、自分の仕事に感じる幸せの意味にあらためて気付いたんです。じわ～っと。ドラマチックな展開や快心の勝利が嬉しいのは当たり前なんだけど、何気ない一瞬一瞬も含めた丸ごとで野球やドラゴンズが愛おしいんだなって、あの時誰もが感じたと思うんです。自分も同じでした。ああ、自分はこの気持ちを忘れずにいよう、この気持ちが自分の原点なんだなと強く思いました。もちろん様々な感謝や、ずっと待ち焦がれていたドラゴンズの試合、っていうのもその通りだったんですが、一言で言えばドラゴンズや野球が大好きっていう単純で無垢な気持ちですよね。それを自分はずっと忘れずにいたいです」**

「自分のことは、そこにある“おもちゃ”だと思って楽しんでもらえればそれが喜び」「偉大になることに自分は興味はない」、そんな風に語る言葉に彼の人柄が表れているが、その奥、その根っこには真摯で謙虚、努力家でファイターであることが隠しきれず、いい感じで匂う。ドラゴンズの選手たちを少しでも後押しできるように、来場者に少しでも多く楽しい気持ちになってもらえるように、そのことだけを愚直に追い求め、考え、リスクも採りながら人知れずトライを重ねているはずだ。

同じ仕事を同じ41歳で始めたという嬉しい共通点があるボブ・シェパード氏みたいになれたらいいな、との想いは紛れもなく彼の瑞々しい野心であり、目標なんだろう。シェパード氏は56年間の長きに渡りヤンキースタジアムで場内アナウンサーを務め、ベースボールに、そしてニューヨーカーに愛されたレジェンドだ。そんな伝説の男がドラゴンズの本拠地で生まれる日が訪れるのなら、それは長谷川巧本人の悦びを越えて、ドラゴンズにとっての大きな幸せになるのではないだろうか。仮にそうなった時でさえ、年齢を重ねた彼は相も変わらず、**「自分のことはただの“おもちゃ”だと思ってくれればいい」**と、笑って言うだろうが。

ドラゴンズに対して、野球に対して、自分の役割や努力そのものに対して“愛が大きいひと”、それが長谷川巧なのかもしれない。伸びのある声、表情豊かに自在に変化する声。自分のアイデンティティをストレートに駆使して放つ、ドラゴンズの戦いへの援護射撃。彼もまたひとりのドラゴンズだ。**「自分の声を良い声だと思ったことはない」**と自身は話すが、皆に心地いい良い声たる所以は、言わば“愛を感じる声”だからなんだろう。

コロナ禍であっても冷静で、ポジティブな気持ちを決して失わない彼がシーズンを前に、ドームに響き渡る声が如く全てのドラゴンズファンに語りかける。

「バンテリンドーム ナゴヤ元年。球団創設85周年。前回優勝からちょうど10年。色んな節目にあたるこの2021シーズン、みんなでひとつになって絶対優勝しましょう!! 」

グラウンドで起こるドラマと観客の琴線をつなぐドラゴンズの共鳴請負人。秋には最高の興奮の中、一世一代の輝きを放つめちゃめちゃでっかい『VICTORYYYYYYY!!』を、思いっきり叫んでもらおう。

Dragons ONEBLUE. YELL FOR EVERYONE'S HOPE.